

【震災時のデマから情報伝達について考える】

三重県松阪市立三雲中学校 楠本 誠

1. 単元について

(1) 学年と単元名(題材名)

- ・ 中学校 2 年生 総合的な学習
- ・ 単元名：情報モラル

(2) ねらい

東日本大震災における実際のデマを題材とし、デマが拡散する仕組みや情報をクリティカルに読み解く方法、震災時の心理と判断についての検討を通して、情報活用能力を育成する。

(3) 概要

第 1 時 SNS とデマを理解しよう。

第 2 時 情報の受信者としてデマを見抜くにはどのようにすればいいだろう

第 3 時 震災時デマが見抜けず拡散してしまった原因は何だろう

第 4 時 専門家に話を聞こう

2. 本時の活動について

XB は第 2 時、第 3 時で活用した。

第 2 時で生徒は情報の受信者としてデマを見抜くにはどうすればいいかを考えた。生徒はデマを見抜くには情報をクリティカルに読み解く事が必要で、「発信者を見る」「根拠を見つける」「語尾を見る」等の行為が必要だと考えた。しかし、震災時にはデマの数が増え、拡散された現状がある。そこで「震災時、多くの人がデマを見抜けず拡散した原因」について考えた。

第 3 時は下記の流れで進めた。

- (1) まず、個人活動である。生徒各自がタブレットをひらき、課題について XB のカードに記入した。(図 1 参照)
- (2) 次に、グループ活動である。各自のタブレットを持ち寄り、班で各自の意見を出し合い、カードの分類、整理をした。XB は各自が書いたカードを選択し、送りたい端末に向けて指をスライドさせることで端末を越えて情報をやりとりできる。作業を進める中で、「これって命に関係しているよね」と分類するテーマを見出し、「命に関わるカードは僕にちょうだい」と話を進める姿が見られた。また、この活動中に、新しく考えや意見が浮かんだ生徒にはオレンジカードとして追加させた。
- (3) 次に、個人活動である。それぞれ 4 台のタブレットには他のタブレットからカードが送信されている。これらのタブレットの画面をそれぞれに分配した。この作業により、他の 3 人のタブレット画面と自分のタブレットの画面の全て表示される(図 2 参照)。XB で分配されたカードは自由に動かすことができる。これを各自が持ち

帰り、カードの分類を再検討、再構成した。また、この活動中も新しく考えや意見が浮かんだ生徒にはオレンジカードとして追加させた。さらに、分類したカードはそれぞれまとめ、タイトルをつけさせた（図3参照）。

- (4) 最後に、全体共有である。各自が再検討、再構成した画面を見ながら、電子黒板で表示し、共有した。生徒は、「命に関わる出来事であったこと」、「身近な出来事が関係したこと」、「情報が少なかったこと」をあげ、特別な原因があったことをまとめた。生徒は最初の考えから、更に深めたり、別の視点から捉えたりすることができた（図4参照）。

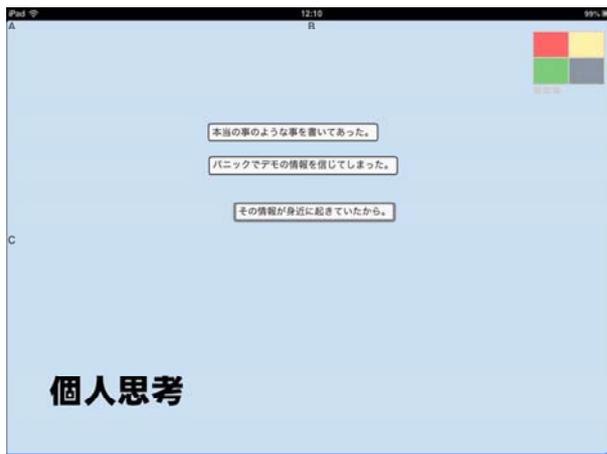


図1 個別思考でXBに記入したカード



図2 グループ思考後、分配した画面

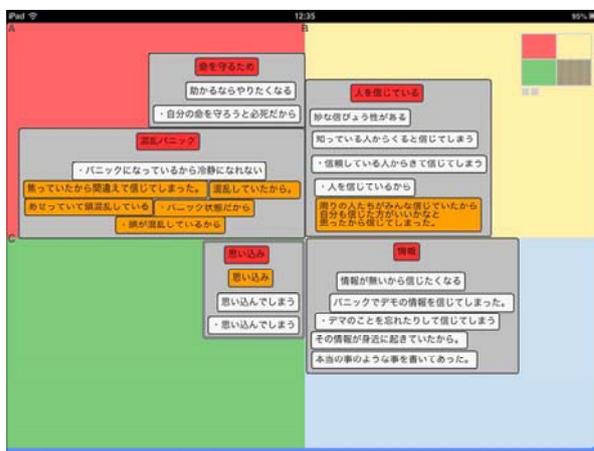


図3 分配画面を個人で再検討、再構成した画面

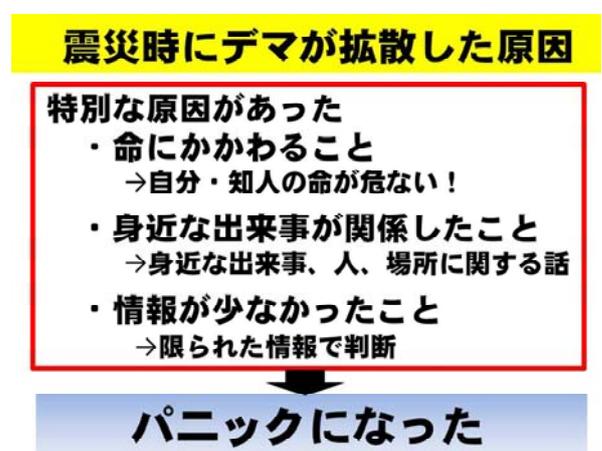


図4 全体共有後、まとめた生徒の考え

3. XB 活用のポイント

オレンジカードの活用

XBを活用したグループ活動、個人作業では、生徒の思考が整理され、新しい考えや意見を生み出すことができる。その新たな考えは背景をオレンジ色にしたオレンジカードに記入し追加した。カードを追加する場合、背景に色をつけ他のカードと差別化をすることで、生徒自身が「カードが増えた」ことを認識しやすくなる。さらに、追加されたカードそのものが「生徒自身の学び」としてとらえさせることができた。